

集落の将来を考えるサポートツール

—「持続可能な地域づくり」に向けて—

令和8年(2026年)3月
兵庫県 企画部 地域振興課

目次

1. はじめに ーサポートツールとは
2. 集落のワガゴト化ツール
3. 支援者が見立てるツール
4. 集落支援の知恵袋

1. はじめに

1-1. サポートツール開発の背景

人口減少のさらなる進行により、近年、兵庫県内においては、**多自然地域※1を中心に小規模集落※2が拡大**しており、個々の集落においても担い手の枯渇が進み、**集落運営の維持・活性化に取り組むことがこれまで以上に困難な状況**となっています。

※1 市街化区域等の市街地を除く自然豊かな地域

※2 世帯数50戸以下かつ高齢化率40%以上の集落

県内小規模集落数の状況



1-2. サポートツールについて

支援者が地域づくりを進める上で、**それぞれのステップごとに有効な3つのツール**を作成しました。全体を取りまとめたマニュアルのほか、ツールごとのマニュアルや各ツールで活用するデータ集やカルテ、様式集などがあります。

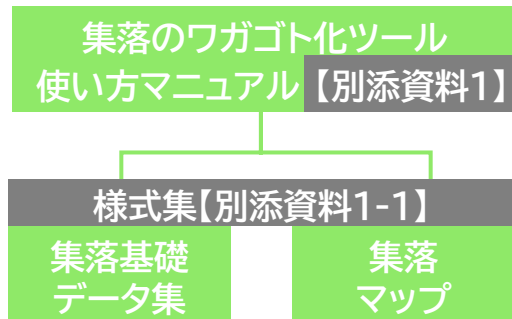
集落の将来を考えるサポートツール

集落のワガゴト化ツール

【ねらい】

- ・集落の現在と将来の姿※を
見える化
 - ・住民のワガゴト化
- ※現状から推測される集落の10年後の姿

【ツール】

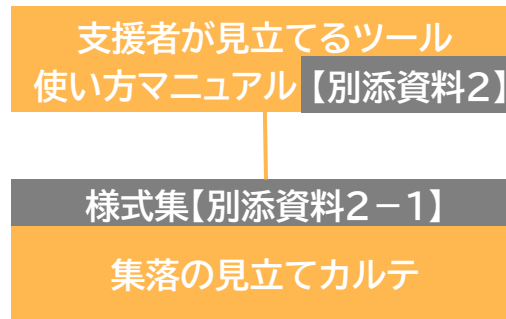


支援者が見立てるツール

【ねらい】

- ・支援者が集落の状況を的確に見
立てることができる
(集落のタイプ(特性)の把握)
- ・特性に応じた支援手法の検討に役
立てる

【ツール】



集落支援の知恵袋

【ねらい】

- ・集落支援時の過程(プロセス)や工
夫(知恵)、結果を共有する
- ・集落支援の「解答」を知るのではな
く、「解法」や「ヒント」を知る

【ツール】

集落支援の知恵袋
使い方マニュアル

【別添資料3】



1-3. サポートツール活用の留意点

○サポートツールは、

- ・集落の正確な情報を集める
- ・集めた情報を元に、集落の支援のあり方を見立てる
- ・支援者どうしの連携を深める
- ・支援者の能力を高める ことを手助けするツールとして作成しています。

○様々な集落支援で活用できることを念頭に作成していますが、すべての集落の実情を網羅しているわけではありません。

そのため、携わる集落の実情に応じて、

- ・支援者でカスタマイズする
- ・不要な情報を取捨選択する 必要があることに留意してください。

○支援者が負担にならないように、活用していただければ幸いです。

1-4. 集落のワガゴト化ツールとは

どんなツール？

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、
地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援するツール

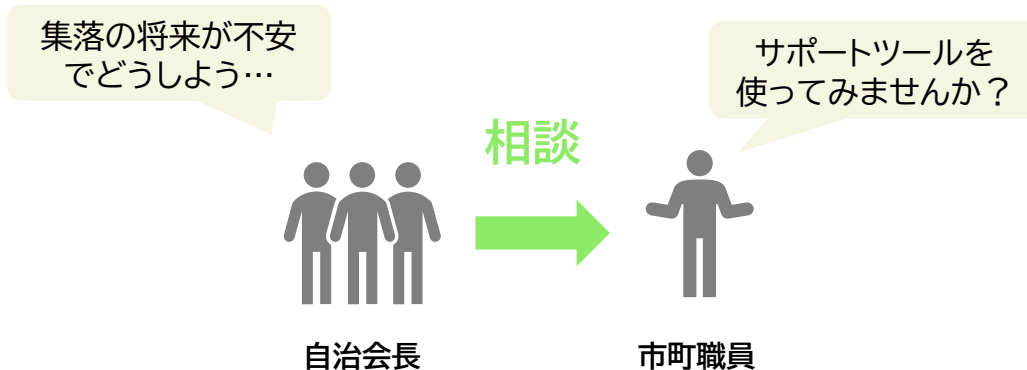
誰が使うの？

地域づくり支援者の皆さん
例えば…市町職員、多自然地域づくりアドバイザー、中間支援組織の方などの支援者

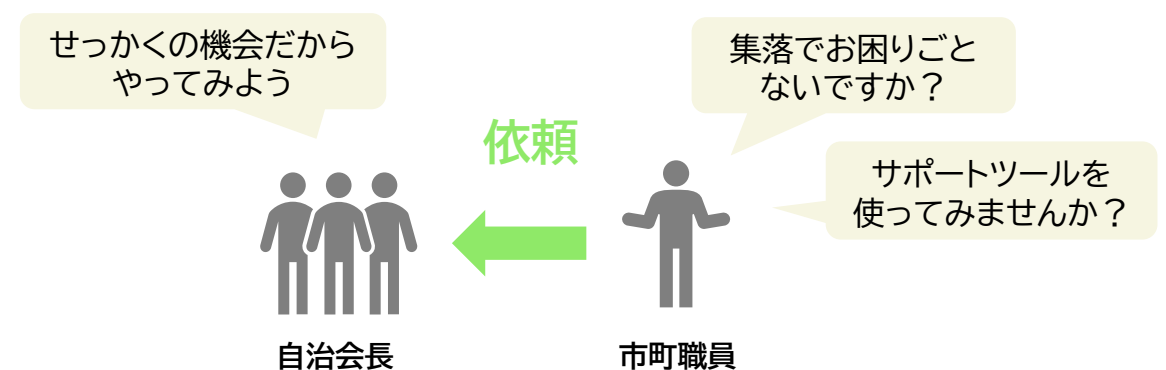
いつ使うの？

例えば…

【集落から相談や要望があった時】



【自治体が地域づくりの政策検討をしたい時】



どうやって使うの？

自治会長等と進め方を協議し、事前に集落の状況をヒアリングした後、住民の方に集まってもらい、「集落基礎データ集」や「集落マップ」を作成

1-5. 支援者が見立てるツールとは

どんなツール？

支援者が集落の状況を的確に見立て、必要な支援策を検討するツール

誰が使うの？

地域づくり支援者の皆さん

例えば…市町職員、多自然地域づくりアドバイザー、中間支援組織の方など

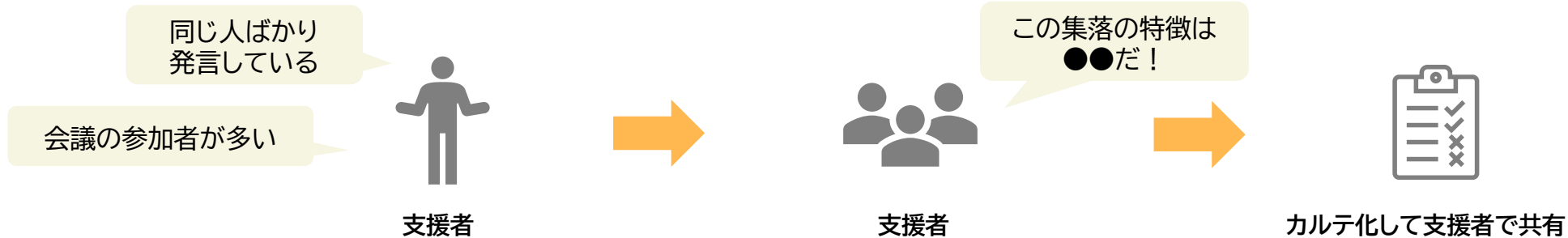
いつ使うの？

例えば…

【支援者どうして集落の状況を共有したい時】

様々なシーンで集落の状況を把握

複数人で話し合っ集落を見立て、所感等をカルテ化



どうやって
使うの？

「集落の見るべきポイント集」を参考に、
住民の話し合いや行事など様々な場面で、集落の雰囲気や状況を読み取り、
複数人の支援者でレポートし、「集落の見立てカルテ」として保存

1-6. 集落支援の知恵袋とは

どんなツール？

支援に関わる関係者が、集落の支援方針や支援内容・方法を検討する際に参考にするツール

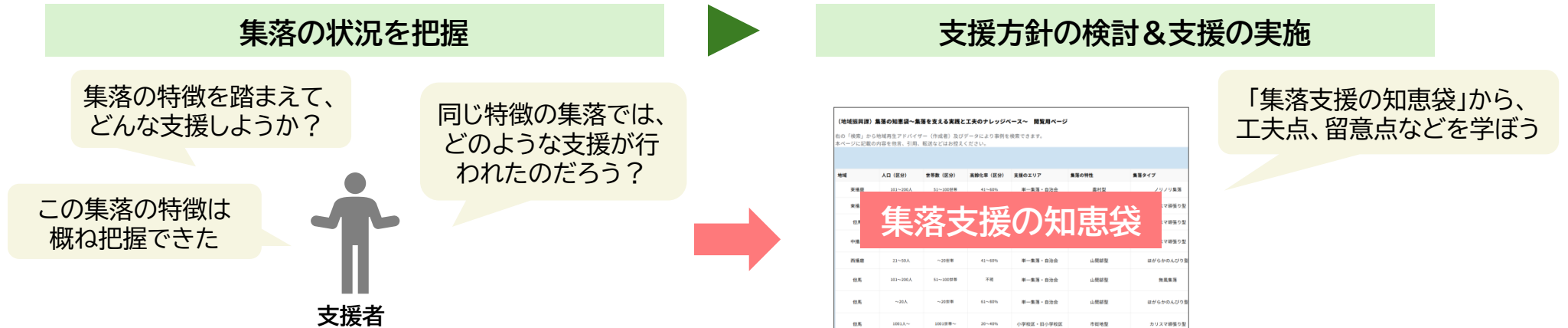
誰が使うの？

地域づくり支援者の皆さん

例えば…市町職員、多自然地域づくりアドバイザー、中間支援組織の方など

いつ使うの？

支援対象の集落に対し、どのような支援をすればいいのか検討する時など

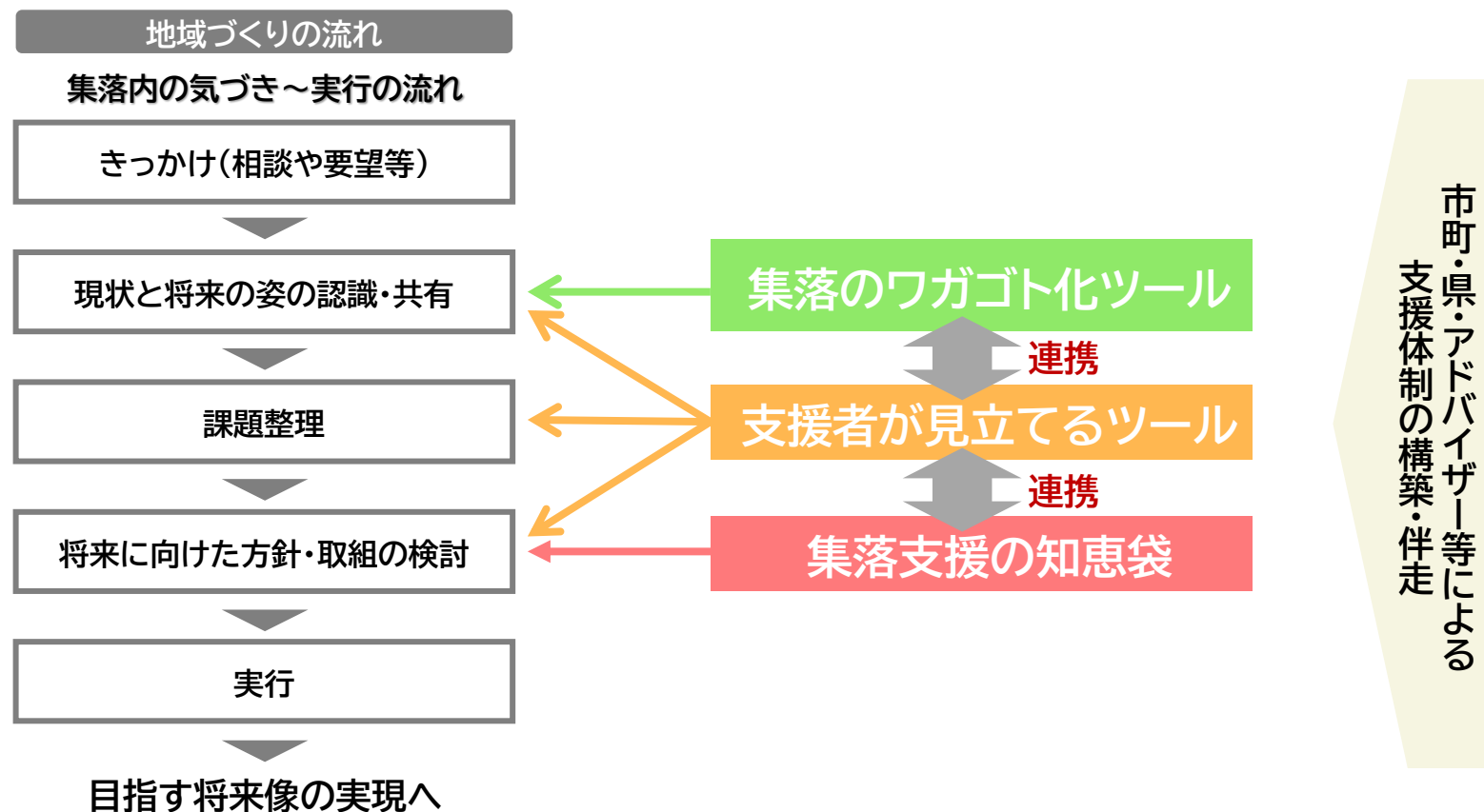


どうやって使うの？

「集落支援の知恵袋(データベース)」にアクセスし、類似した集落や支援テーマなどを絞り込み(検索して)、支援時の過程(プロセス)や工夫(知恵)、結果を知る。それらも参考に、自らの支援策の参考とする

1-7. サポートツールの活用方法

集落のワガゴト化ツールは、集落の現状や将来の姿を可視化・共有化し、検討を始めるきっかけとして活用します。支援者が見立てるツールは、集落のワガゴト化ツールの情報も参考に、集落の立ち位置を把握し、課題整理や方針検討時などに活用します。集落支援の知恵袋は、具体的な支援方法を検討する際に活用します。



1-8. サポートツール活用のための体制づくり

地域づくりの取組には、庁内のさまざまな部署、地域づくりに関係する団体や支援者などの連携・協力体制の構築が重要です。

サポートツールの作成にあたり、関係する方々と集落の情報を共有しながら進めることは、関係者どうしの横のつながりが強まり、体制構築につながります。



● 地域づくりに関係する団体や支援者の例

- ・ 社会福祉協議会
- ・ 民生委員
- ・ 集落支援員
- ・ 地域おこし協力隊
- ・ 専門的な人材支援
(多自然地域づくりアドバイザー、中間支援組織)
など

● 地域づくりで共有したい集落(地区)情報の例

- ・ 人口・世帯数(推移)
- ・ 地理・歴史
- ・ 住まい・空き家
- ・ 共同施設
- ・ 共同活動
- ・ 活性化活動
- ・ 伝統・文化行事
- ・ 農地・ため池・山林
- ・ 防災(過去の災害被害含む)
- ・ 隣保・組編成
- ・ 集落内の組織・役職
など

2. 集落のワガゴト化ツール

2-1. 集落のワガゴト化ツールの目的

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、
地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援する
ツールが「ワガゴト化ツール」です。

【目的】

- ① 「集落の現状」を見える化する(可視化する)
- ② 集落の方が「ジブンゴト」として集落のことを考え、
主体的に地域づくりを進める
ことが円滑に進められるように作成したもの(フォーマット)

【期待される効果】

- 関係機関と情報共有を図りながら、集落との連携を深める
- 「持続可能な地域づくり」の連携・協力体制を整備する
- 集落の現状を把握し、施策に展開する

2-2. 集落のワガゴト化ツールの活用シーン

このツールは、

- 集落から相談や要望を受けたとき
 - 集落について、住民どうしてもっと理解したいとき
 - 支援者が集落とコミュニケーションをとりたいとき
 - 地域づくりの施策検討をしたいとき
- などの場面において活用できます。



集落マップの作成の様子(朝来市)

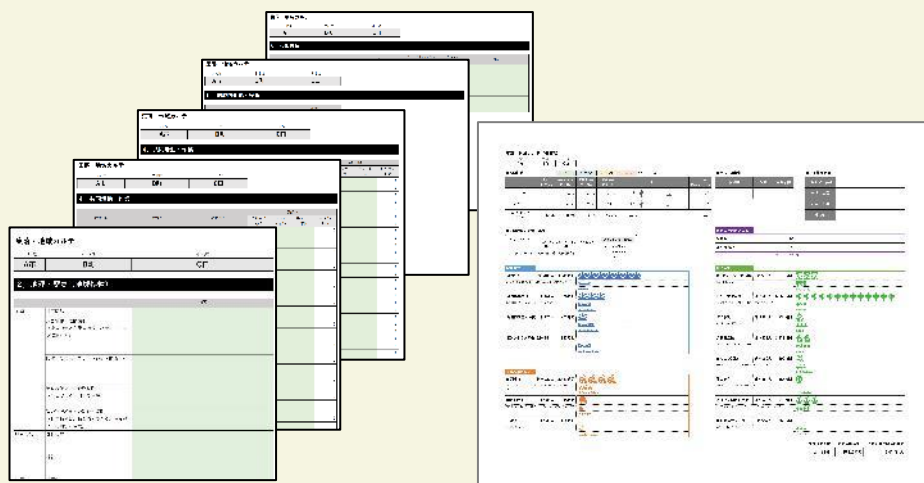


2-3. 集落のワガゴト化ツールとは

集落のワガゴト化ツールとは、【A】 集落基礎データ集、【B】 集落マップの2種類を言います。

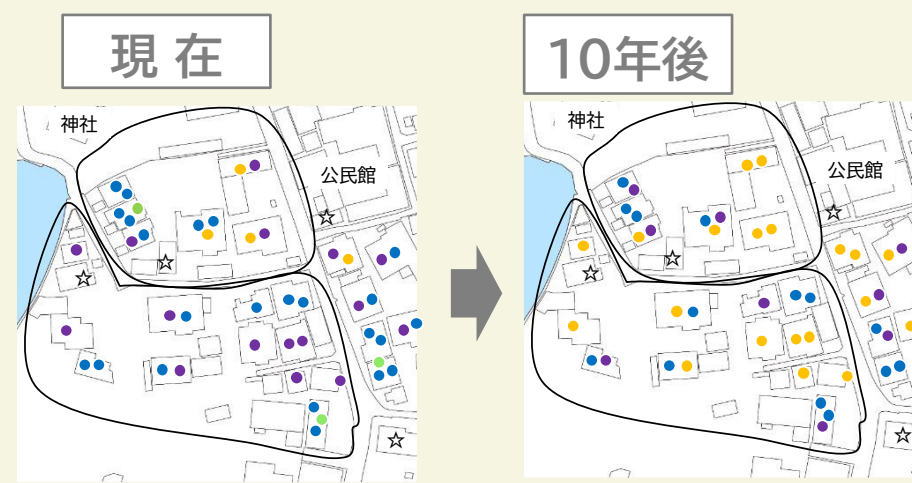
【A】 集落基礎データ集

集落の実情(人口、共同活動の様子など)を正確に把握し、住民のジブンゴト化を進める



【B】 集落マップ

「現在と10年後の集落の姿」を可視化し、住民の方に危機感を持っていただく



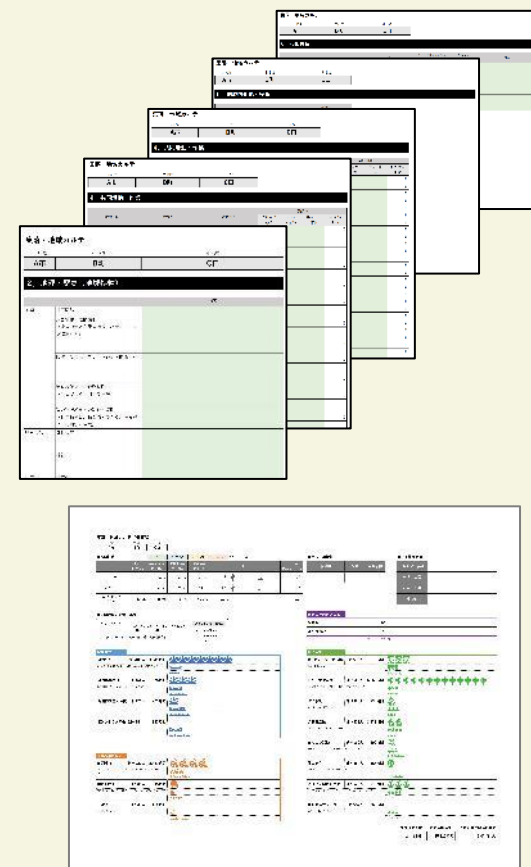
POINT!

- 集落のワガゴト化ツールは「作成すること」が目的ではありません。
地域で集まり「地域の現状やこれから」を話し合うきっかけとして、活用するものです。

2-4.【A】集落基礎データ集とは

【A】集落基礎データ集で収集(把握)する項目(例)

項目	内容(例)
ひと・人口構造	人口、年代、世帯、関係人口…
地理・歴史(地域特性)	地区面積、寺社、災害、住宅・空き家、交通…
地域施設	住民の共同管理施設・場所(公民館など)…
共同活動・作業	寄り合いの場、文化活動、防災活動、公民館活動、支え合い活動、環境維持活動…
地域内組織・役員	組織名、隣保・組編成、役職…
参加機会	女性、若者、外部人材の参加…
組織連携	広域や周辺の組織との連携…
資金資産	自治会費・区費、固定資産・預金…



※ 把握する項目の詳細は「集落のワガゴト化ツール使い方マニュアル(別添資料1)」を参照

2-5.【B】集落マップとは

【B】集落マップで把握する項目(例)

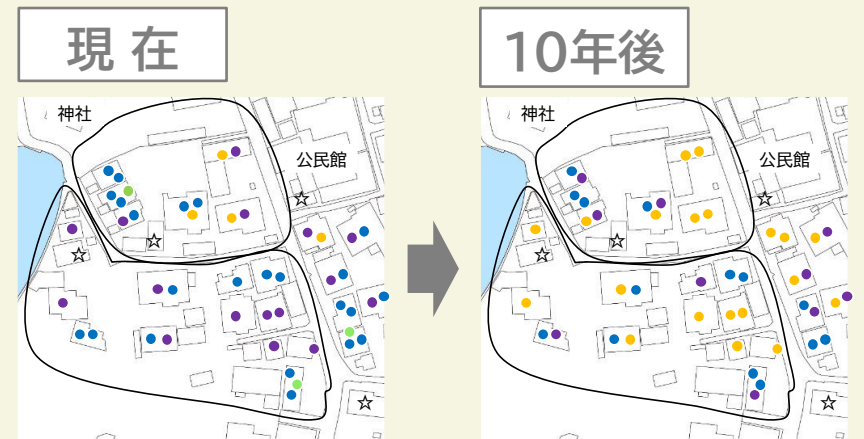
① 地図に書き込む情報

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 世帯とその人数・年齢 | ☐ 隣保・組 | ☐ 地域施設・公共施設 |
| ☐ 空き家 | ☐ 農地の管理状況 | ☐ 寺社仏閣 |
| ☐ 危険個所 | ☐ 交通 等 | |

② 話し合いの中で確認していく項目

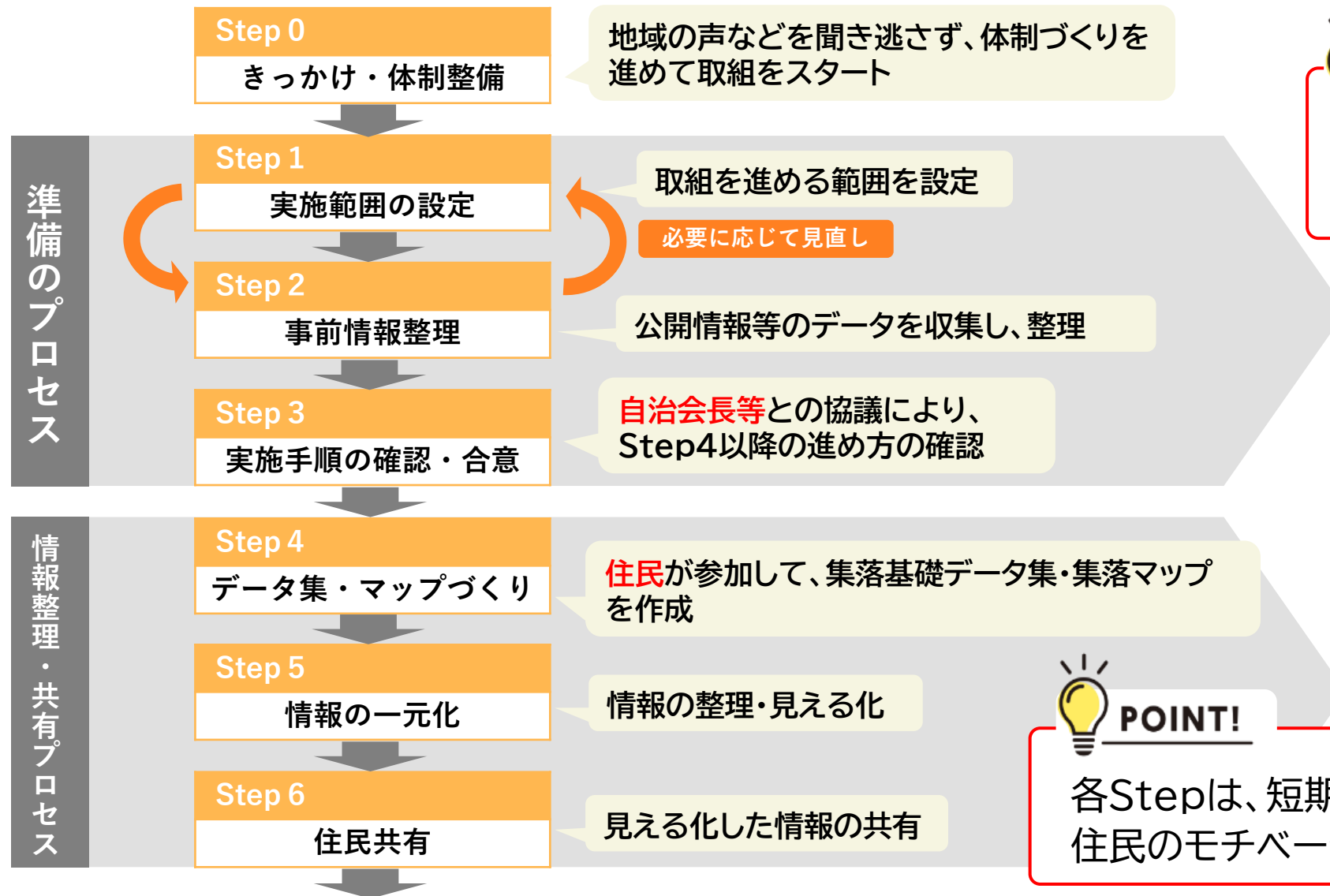
ー地図をつくりつつ・眺めながら、以下の項目を話題にしながら、話し合う

- ☐ 現在の集落の役職・共同活動の内容など
- ☐ 将来について話し合う場・集落の行事・役職等の見直しや変更の有無・状況
- ☐ 集落で暮らしつ続けるために必要なこととそれらに対応し、集落で取り組んでいること
- ☐ 空き家や農地等の資産・土地利用の対応状況と意向
- ☐ その他、将来に向けて気になること・不安なこと・必要なこと
- ☐ 集落の魅力や強みなど



※ 把握する項目の詳細は「集落のワガゴト化ツール使い方マニュアル(別添資料1)」を参照

2-6. 集落のワガゴト化ツールの手順



POINT!

準備プロセスを進めながら
支援体制を整えましょう



集落マップの作成の様子（朝来市）



POINT!

各Stepは、短期間で実施する方が、
住民のモチベーションが維持できます

課題整理、将来ビジョン等の検討へ

3. 支援者が見立てるツール

3-1. 支援者が見立てるツールの目的

支援者が集落の現状を的確に見立て、必要な支援策を検討するものです。

1. 「集落の現状を的確に見立てる(把握する)こと」をサポート

- 集落の将来を考えていく上で、支援者は「どのような雰囲気集落か」、「新しい取組や動きは起こせそうか」などを、さまざまな場面(シーン)から把握することが求められます。
- これらは支援者の経験や感覚で行われることが多いですが、その指針として参考項目を示しながら、「集落の見立て」をサポートします。

2. 「集落の今後の支援活動につなげること」をサポート

- 「現在の地域の立ち位置(=集落の見立て)」と「集落が目指す姿」とのギャップを把握し、それぞれの集落の状況に応じた、きめ細やかな支援活動につなげることをサポートします。

3. 「支援者間の対話の場づくり」をサポート

- 「集落の見立て」は、支援者間や集落の状況を知らないメンバーに共有するツールとして「場づくり」にも活用できます。



POINT!

「支援者が見立てるツール」は、集落の主体的な取組を促すことを手助けするものです。

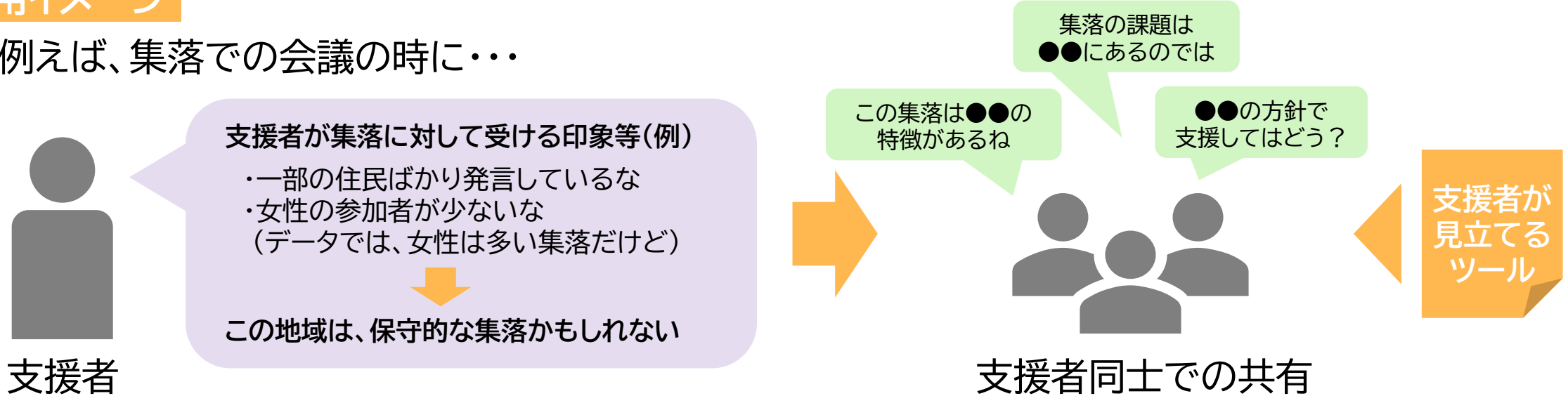
※集落に直接的に何かを起こさせるものではありません

3-2. 支援者が見立てるツールの活用シーン

集落の支援策を検討するためには、集落の現状を的確に見立てて、支援者同士で共有することが重要です。そのため、会議などの場面(シーン)で、**支援者が考えていることを言語化し、共通言語として支援者同士での共有をサポート**します。

活用イメージ

例えば、集落での会議の時に...



※その他にも、集落の現状を見立てる場面(シーン)はさまざまあります

- 役員等との打ち合わせ時
- 集落の視察時(訪問時)
- 住民の話し合い時(会合・寄り合い時)
- 総会資料等の確認時
- イベント・行事の参加時

3-4. 集落の見るべきポイント集とは

「集落の見るべきポイント集」は、把握項目ごとに集落を見立てるポイントを例示し、集落を見立てることをサポートする指針です。

「集落を見立てる」にあたって把握する項目

※下記4項目ごとに「見るべきポイント」を記載



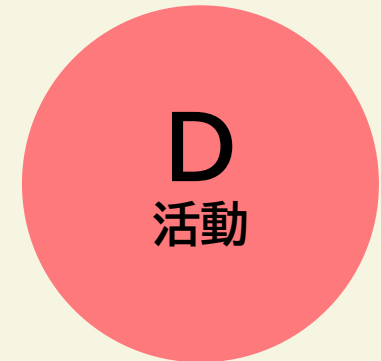
- 様々な世代・性別が交流しているか
- 人材がいるか



- 情報が共有されているか
- 危機意識が共有されているか



- チームワークがあるか
- 各種団体が一体的に動いているか



- 地域活動が積極的に行われているか
- 外部の団体等と連携しているか

※集落の規模・状況により、把握すべき項目は変わります。

3-5. 集落の見立てカルテとは

「集落の見立てカルテ」は、集落の現状を見立てる場面(シーン)において気付いた所感を、複数人の支援者でまとめるものです(コミュニケーションのきっかけとするもの)。

支援者同士の話し合いにより、「集落の見立てカルテ」を作成

● INPUT(支援者各自で集落の見立て)

- A 多世代交流 ⇒ ○○パターン
- B 人材 ⇒ ○○パターン
- C 情報共有 ⇒ ○○パターン
- D 地域の一体性 ⇒ ○○パターン



● OUTPUT(集落の見立てカルテ)

把握項目	詳細
見立てた概要	日付、作成者
集落の特徴	相談のきっかけ、課題、強み、特殊事情等
集落の所見	A～Dごとのタイプ分け、所見、総評、確認すべき事項
支援の方針	目指すこと、支援方針



3-5. 集落の見立てカルテのイメージ

「集落の見立てカルテ」の様式

〇〇市集落の見立てカルテ

集落名	●●集落	作成者	●●、●●、●●	
		作成日時	令和●年●月●日	
課題 (相談のきっかけ)	(例) 自治会長から高齢化が進み、今後の地域活動が難しくなってきたと相談を受けた。			
集落の状況 (集落の強みや特徴、 特殊事情があれば記載)	(例) 中山間地域に位置する農村集落。 (ネガティブな話ばかりにならないように強みや特徴を記載、また「地区内に開発された分譲地がある」など、特殊な事情があるときはその旨を記載)			
1) 集落パターン				
集落パターン	A 多世代交流・活躍 (例) 役員主導型	B 情報共有 (例) 特定人材共有型	C 地域の一体性 (例) バラバラ型	D 活動 (例) なんとか継続型
所見	(例) 役員は頑張っているが、 他がついてきていない	(例) 役員間のみで話し合いが 行われている	(例) 行事の参加者・協力者が 固定されている	(例) 活動に疲弊感がみられ、 継続性が危ぶまれる
総評	(例) 役員のなり手が少なく、固定化している。役員に危機意識はあるが、地域住民に広く浸透していない。人材不足で新たな取り組みが進みにくい。			
確認事項	(例) 〇〇のような状況で、〇〇と見立てたが、まだ、集落の一部しか見られていないため、正確ではない。			
2) 支援の方針				
集落のありたい姿	(例) 50年後も住み続けられる環境を維持する			
支援の方針 (確認すべきこと等)	(例) 地域内での対話の場を増やし、課題意識を啓発していく必要がある。外部の人材の受け入れ体制整備など、集落活動の継続性を検討する必要がある。			
(参考)				
集落タイプ	カリスマ頑張り型			
所見	(例) 役員や特定の個人が中心に活動を行っており、地域住民にその活動が広がっていない。役員等の高齢化により、今後の集落活動の存続が危ぶまれる。			



- 支援者の集落への関わり程度により、見立てが異なることがあるため、「誰が・なぜそのように判断したのか」の理由を記載しておくことが大切です。
- 「集落の見立てカルテ」をファイリングすることで、変化の確認や引継ぎに役立ちます。
- 集落を見立てる際は、集落のよいところだけではなく、問題であるところも意識して判断する必要があります。
- できれば多自然地域づくりアドバイザーなどの外部の専門家を交えて、支援の方針を検討しましょう。

4. 集落支援の知恵袋

4-1. 集落支援の知恵袋の目的

支援者のノウハウを蓄積し、支援方針や支援方法の検討を手助けします。

1. 「過去に行われた支援内容と結果」を支援者どうしで共有する

- 支援者は、個別の集落支援ごとに「どのような支援が適切か」を検討することが求められます。
- 経験の少ない支援者が、自信を持って集落支援を実行するために、「先輩支援者がどのような支援方針や意図のもとアクションをとり、その結果どうなったか」を把握することができます。

2. 「支援のプロセス」が分かる

- 集落支援の現場では、想定と異なったこと、よい変化やよくない変化などが起こります。また、支援を続けていると「集落の潮目や空気が変わる場面(瞬間)」があります。
- 知恵袋の活用により、「支援内容により、集落にどのような変化が起きたか」といったプロセスを知ることができます。

3. 「支援ノウハウのアーカイブ」として活用する

- 兵庫県として、様々な支援者が保有する支援のノウハウをアーカイブ化し、ナレッジベースとして蓄積することで、今後の地域支援のベースアップを図っていきます。
- なお、過去の支援のノウハウをそのまま適用するものではなく、あくまで参考にするものです。
※集落支援の「解答」を知るのではなく、「解法」や「ヒント」を知るツールです。

4-2. 集落支援の知恵袋の全体像



POINT!

支援者による支援者のためのデータベース

集落支援の知恵袋

過去に行われた支援実績、ノウハウを蓄積したデータベース(Kintoneで構築)

【地域振興課】集落の知恵袋～集落を支える資源と工夫のナレッジベース～ 閲覧用ページ

出典「知恵」から地域再生アドバイザー（作成者）及びデータにより事例を抽出できます。
本ページには一部の情報を掲載し、詳細な情報は別途ご確認ください。

地域	人口（世帯）	世帯数（世帯）	集落化率（世帯）	集落のエリア	集落の特性	集落タイプ
東郷郡	101～200人	31～100世帯	41～60%	第一集落、第二集落	農村型	ノリノリ集落
東郷郡	401～1000人	201～400世帯	30～40%	第一集落、第二集落	農村型	カリスで集落型
西郷郡	401～1000人	201～400世帯	41～60%	小学校区、中学校区	山村型	カリスで集落型
中郷郡	401～1000人	201～400世帯	41～60%	第一集落、第二集落	山村型	カリスで集落型
西郷郡	21～100人	～20世帯	41～60%	第一集落、第二集落	山村型	カリスで集落型
西郷郡	101～200人	31～100世帯	41～60%	第一集落、第二集落	山村型	カリスで集落型
西郷郡	～20人	～20世帯	41～60%	第一集落、第二集落	山村型	カリスで集落型
西郷郡	101人～	101世帯～	30～40%	小学校区、中学校区	山村型	カリスで集落型

県が設置・管理

支援者同士でノウハウを蓄積・共有し、
地域支援のベースアップをめざす
(みんなで知恵袋を作り上げていく)

支援者(=「集落支援の知恵袋」の利用者)



「集落支援の知恵袋」の利用には、
県への申請・承認が必要

A: 支援実績の入力 (また入力内容の更新)

- ① 集落への支援を実施
- ↓
- ② 支援実績等を整理
- ↓
- ③ 支援実績等を「集落支援の知恵袋」のフォームに入力して登録
※1プロジェクトごとに入力

B: 支援案件の閲覧(利用)

- ① 「支援テーマ」などのキーワードごとに支援案件を検索して閲覧(利用)
- ↓
- ② 支援案件から、支援のプロセスや、工夫(知恵)、結果等を把握
- ↓
- ③ 自身が関わる集落支援に役立てる

4-3. 集落支援の知恵袋の運用ルール

●「集落名」と「支援者の連絡先」は非公開情報とします

- ・集落支援の詳細を知りたい場合は、県を通じて、記入者(支援者)に連絡を取ることにします。

●利用者は、「県に申請があった地域支援者」とします

- ・市町担当者、社会福祉協議会、中間支援組織、多自然地域づくりアドバイザーなどを想定します。
- ・利用にあたっては、県に申請を行い、メールアドレスにより利用登録を行うものとします。

●「集落支援の知恵袋」の閲覧には、下記のルールを遵守することとします

- ・「集落支援を検討する場面」に限って利用することとします。
- ・「集落支援の知恵袋」の内容については、他言、引用、転送、印刷などは一切禁止とします。
- ・フリーライドではなく、ギブ&テイクをめざします(仕組み化は難しいが姿勢として)。

●「集落支援の知恵袋」の入力には、下記の運用を想定します

- ・日々の追加により、「集落の知恵袋」が少しずつ更新されることをめざします。
- ・多自然地域づくりアドバイザーの方は活動報告のタイミングと合わせるなど、負担の少ない入力方法を検討しています。

4-4. 集落支援の知恵袋の申請

●「集落支援の知恵袋」の利用には、**事前申請が必要**です

- ・リアルな支援プロセス・ノウハウを収集するため、一般に公開していません。
- ・「集落支援の知恵袋」の利用には、下記の担当課に申請する必要があります。

[「集落支援の知恵袋」利用申請フォーム](#)

●申請を受けて、担当課で登録の手続きを行います

●登録の手続きが済み次第、申請者にその旨を連絡します



POINT!

「集落支援の知恵袋」の利用は、県内で集落支援等を行う方(*)を想定しています。

※：市町職員、多自然地域づくりアドバイザー、中間支援組織の方 など

※今後、使用状況に応じて、登録可能な範囲を拡大する可能性があります。

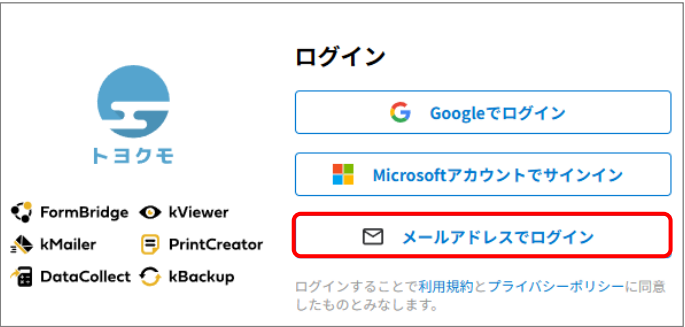
4-5. 集落支援の知恵袋へのアクセス

● 「集落支援の知恵袋」のサイトにアクセスします

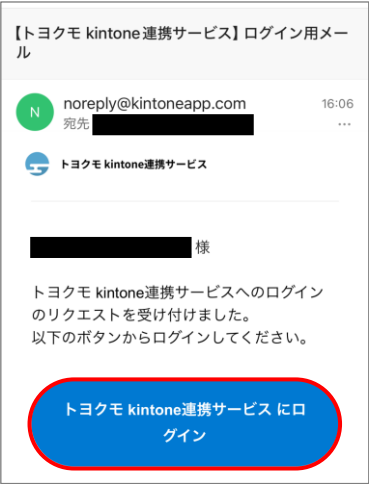
・「閲覧用」、「入力用」、「更新用」の3種類のサイトがあります。

閲覧用サイト	入力用サイト	更新用サイト
https://x.gd/Phzyp	https://x.gd/yZMLU	https://x.gd/iNyhE

● 登録されたメールアドレスを入力することで、サイトに入れます



- ・ 「集落支援の知恵袋」のサイトにアクセスするとログインが求められます
- ・ 登録されたメールアドレスでログインします



- ・ 登録されたメールアドレスにログイン用のメールが送信されます



- ・ 各サイトに入れます